

---

# 神様の涙

龍川歌風

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

神様の涙

### 【Nコード】

N6459C

### 【作者名】

龍川歌風

### 【あらすじ】

最近、空の神様たちが泣いているようです。天使はその理由が知りたくて、地上に住む精霊のもとを訪れました。すると意外な答えが返ってきたのです・・・。

ある日、天使は悩んでいました。

なぜなら最近、よく空の神様達が泣いているからです。

でも彼はまだ幼かったから、神様達がどうして泣いているのかわかりませんでした。

直接神様達に尋ねても、「大丈夫だよ、気にしないで」、「とはぐらかされてしまいます。

そこで天使は、下界に住む知り合いの精霊に聞いてみることにしました。

「あのさ、このごろ神さま達がよく泣いているのを見るんだけど、どうしてだかわかるかい？」

「ああ、そんなの簡単さ。神様達はね、人間のせいで泣いているんだよ」

「ニンゲンのせいで？ どうして？」

天使はきょとんしました。

「だって人間は『神の名の下に』、とか、『神様の為に』、とか言つて、同じ人間同士で傷つけ合ったり、殺し合ったりしているだろ？ でも本当はね、神様達はそんなこと望んじやいないんだ。ただ彼らに、平和な世界で、幸せに生きてほしいって願ってるだけなんだよ」

精霊のその言葉に、天使はショックを受けました。

自分にできることならなんでもしようと思っていたけれど、こればかりは彼の力だけではどうにもならなかったからです。

「そっか、そうだったんだ……じゃあ神様たちはどうやって元氣になってくれるのかな？」

「んー、そうだな……。あ、じゃあさ、空にこれを持っていってあげたらどうだい？」

精霊は天使にとある物を手渡しました。

空へと帰る途中、天使は精霊が別れぎわに言っていた言葉を思い出しました。

『もしかしたら、世界で一番かわいそうなのって神様なのかもしれないな。だって神様は【誰かの】願いを叶えることはできても、【誰かに】願いを叶えてもらうことはできないんだから・・・』

思い出すたびに、天使の胸はズキズキと痛みました。

天使は空に帰るとさっそく、空の神様の一人、太陽の神様が泣いているのを目にしました。

しかし天使が見ているのに気づくと、太陽の神様はすぐさま涙を拭いてしまいました。

「太陽の神さま、また泣いていたの？」

「・・・。」

「・・・ねえ太陽の神さま、こっちに来てください。おもしろいものを見せてあげるよ！」

「面白い物？」

「うん、こっちこっち！」

天使はぐいぐいと太陽の神様の手を引っ張っていきました。

そこは雲の切れ間でした。

雲と雲の間から、美しい地上の風景が顔をのぞかせています。

「いったい何を・・・おや、それは・・・？」

ここで太陽の神様はようやく、天使がなにやら腕にカゴを提げているのに気づきました。

カゴの中には白い、米粒ほどの小さな花がたくさん入っています。「花の精霊さんがくれたんです。ほら、見ててください」

そう言って、天使はカゴの中の花を一掴みすると、雲の切れ間からパラパラと落とし始めました。

ふわりふわり。

風に乗って落ちゆく姿はまるで雪のよう。

「ほお、綺麗ですね……」

「でしょ？花の精霊さんが考えてくれたんだよ！」

「おや、そうだったのですか。では後でお礼を言っておかなければなりませんね。……ところでこのお花、なんという名前なのですか？」

「『オリーブ』っていうそうです。花の精霊さんが言ってたんだけどね、ニンゲンたちの間では『平和』をあらわすお花なんだって」  
「平和を……？」

「うん、だからね、これからばく、世界中の空からこの『オリーブ』のお花を降らしていこうと思うんです。そうすればいつかきっと、平和を願う神さまたちのココロも、ニンゲンたちに届くだろうから……」

「……え？」

「……花の精霊さんから聞きました。神さまたちが泣いているのは、ニンゲンたちが争ってばかりいるからだって」

「！それは……」

「ばく、神さまたちのこと大好きだから、神さまたちのお願い、かなえてあげたいんです。……でもばくたち天使には、神さまたちのような願いをかなえる力はないから……こんなことしかできなくてごめんなさい……」

天使はしょぼんとしてうつむきました。

すると太陽の神様は、天使の肩に優しく手を乗せ、言いました。

「ありがとっ、そのお気持ちだけで十分嬉しいですよ。ええ

きつと、あの花と共に、私達の心も彼らに伝わるはずです」

太陽の神様はにっこりとほえみました。

どうやら天使のおかげで、ほんのちょっぴり元気が出たようです。

「うん！」

太陽の神様に励まされ、天使も満足そうにほえみました。

そして二人は願いを込め、さらにもう一掴み、『オリーブ』の花を地上に向けて放ちました。

こうして天使は、神様達の心を人間達に伝えるため、今なお世界中の空から『オリーブ』の花を降らして回っているそうです。

さて、この『オリーブ』のお花、あなたの元にも届きましたか？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6459c/>

---

神様の涙

2010年10月30日09時37分発行